

手のひらの伊予銀行

AGENT

アプリ

残高や入出金の確認
振込ほか各種手続きも
アプリで簡単!




インストールはこちら

伊予銀行

エレベーターメーカーじゃないと
保守や修理対応は難しいでしょ?

ほとんどのメーカーに
対応しています!
最大50%のコストダウン
を実現します!



創業45年 エレベーターの保守・改修工事
愛媛メンテナンス株式会社

感動を、けずりだそう。

マルトモ

プレミアムなかつお節といえば
「フレ節」です。

フレ節 PREMIUM
dried bonito

住所 宇799-3192 愛媛県伊予市米湊1696番地 TEL https://www.marutomoto.co.jp

阿ることなく・恐れることなく

愛媛経済レポート

週刊 1973年創刊

2026年(令和8年)5月4日号 第2493号

ユタカ

18億円投じ精密加工の新工場

=半導体など受注増に対応、省人化設備も導入=



千平方メートル。建物は鉄骨2階建て、延床面積2064平方メートル。敷地面積2064平方メートル。機械の振

同社は1977年創業。半導体や航空宇宙、防衛、医療向けの精密部品の加工を行う。加工機は175台を保有し、三次元測定機など検査設備も多数備える。人材育成にも力を入れ、サブミクロン(1000分の1)単位の精度と品質保証体制を構築している。工場は西垣生町と南吉田町に計10拠点。試作段階から参画する案件が多く、メーカーとの直接取引が中心。半導体分野では複数工程の製造装置の部品を手掛け、AI普及などの需要拡大を背景に受注が増えている。他分野でも増産が進み、次世代製品の開発案件も増加。受注ベースで45億円と、過去最高だった3年前の売上高と同水準に近づき、生産能力の強化のため新工場建設を決めた。建設場所は松山市南吉田町2064-1他。

動による床揺れを防ぎ精度向上を図るため、厚さ80センチのベタ基礎を採用。高性能断熱材と空調設備で室温を安定させる。複合旋盤を中心に15台を導入。材料の着脱を自動化し、夜間無人運転に対応する機種も取り入れ、省人化と生産性向上を図る。10月の完成を予定。総投資額は18億円(土地代は別)。

過去5年間で毎年7〜8億円規模の設備投資を続けてきた。「顧客のニーズに対応した結果」(二神社長)とし、今後も市場動向を見極めながら投資を継続する方針だ。

旋盤加工は段取り替えが多く、素材ごとの微調整に熟練を要することから、全国的に技術者不足が続く。同社は年間約2千万円を投じて採用と育成を進めてきた。建設後には研修ルームを設け、定年退職者らを指導役とする「マイスター制度」を導入。旧型旋盤機を活用し、若手育成の仕組みを整える。「旋盤加工ならユタカと呼ばれるよう、設備と人員の両面を強化したい」(同)としている。

人材育成さらに強化

精密金属加工の(株)ユタカ(松山市西垣生町、二神久光社長)は、18億円を投じ新工場を建設する。AIによる世界的な半導体需要の拡大のほか、航空宇宙・防衛・医療の各分野でも受注が増加し、生産能力の増強が急務となっていた。全国的に対応できる業者が減っている旋盤加工を中心に行う。省人化設備の導入と併せて技術者育成も強化する。

学生向けの企業紹介WEBサイト



愛媛シゴト図鑑

一梅酢のリンゴ酢探訪

さまざまな媒体で繰り返して特集されるテーマの一つが健康。その中で「毎年必ず登場するのがリンゴ酢」と(株)一梅酢(新居浜市郷)の寺岡武志社長は語る。

同社は1948年創業の酢専門メーカー。創業者である寺岡社長の祖父が開発・培養に成功した独自の酢酸菌「一梅菌」を使い、伝統的な醸造にこだわった酢づくりを続けている。



リンゴ酢は血糖値の上昇抑制や疲労回復など、健康や美容面での効果が期待され、近年は飲料としても親しまれている。一方で酸味の強

さから、日常的に取り入れるににくいという声もある。「せっかくのリンゴ酢を多くの人に飲んでもらいたい」と、1年掛けて開発したのが今年2月に発売した「お酢屋のつくるりんご酢」だ。以前からリンゴ酢の醸造を行っていたが、新商品はその4倍のリンゴ果汁を使用。酢酸発酵工程だけでなく、発酵後にも果汁を加える「追い果汁」をした。酒もろみも国産米を使った自社製造で、「香りが高く、まろやかで味わい深い、飲みやすい仕上がりになった」とする。

4〜6倍に希釈して飲むほか、ヨーグルトやドレッシング、マリネなどへの活用も想定。納豆や酒にも合うという。首都圏で先行販売し、高評価を得ており、今後は県内のスーパーや道の駅でも展開する。価格は200ミリリットル入りで税別780円、360ミリリットル入りで税別980円。

社長の★Birthday

- 國分美由紀さん(株)アトリウム、昭和35年4月27日
- 弘田勉さん(株)京屋、昭和41年4月27日
- 田中利幸さん(TGI株)、昭和46年4月27日
- 登尾昌弘さん(登尾鉄工株)、昭和36年4月28日
- 黒田仁朗さん(株)MOBURY CORPORATION、昭和38年4月28日
- 兵頭寛昭さん(大進建設株)、昭和49年4月28日
- 近藤誠二郎さん(有島津寿司)、昭和57年4月29日
- 鳥谷陽一郎さん(株)連合企画設計、昭和33年4月30日
- 妹尾次郎さん(正起ガス株)、昭和36年4月30日
- 赤松正教さん(アカマツ株)、昭和57年5月2日

2026年版会社年鑑より一部掲載

思わず行きたくなる! ひと かわさの女



陶房 くるみ
代表 中川 久留美さん



所在地: 松山市中野町甲148-5
電話: 090-4977-6874
営業時間: 10~17時
定休日: 不定休



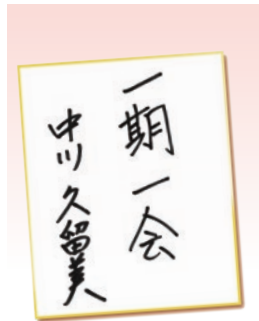
HP

陶房くるみは2015年開業。人用・ペット用の食器を砥部焼で製造・販売している。HPで陶芸体験を受け付け中だ。

同窯元では、絵付けに好きな形にカットした和紙を貼って模様を作る「和紙染め」を採用。「柔らかい雰囲気を出せるのが特徴で、筆で絵を描くのが苦手な人でも楽しめる」という。

中川さんは砥部町出身。1962年4月12日生まれ。陶磁器

製造一級技能士の資格を持つ。また、砥部焼作家の女性グループ「とべりて」のメンバーとして、砥部焼の周知活動にも力を入れていく。



「手に取ってもらった方に素敵な時間を過ごしてもらいたい」との思いを、作品一つひとつに込めていると話す中川さん。描くモチーフは植物や動物が多く、飼っているペットや土手に咲く草花から癒やしとインスピレーションを得ているそうだ。趣味は旅行。旅先ではその土地の陶芸文化に触れることもあり、最近では鮮やかな青色が特徴の石垣焼を体験した。

※当コーナーにご登場いただける女性を募集しています ☎089-947-1411(うわさの女係)